

「水防災意識社会 再構築ビジョン」  
に基づく取組について

# 水防災意識社会 再構築ビジョン

H27.12.11 国交省記者発表

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「水防災意識社会 再構築ビジョン」として、全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

**<ソフト対策>** ・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

**<ハード対策>** ・「洪水を安全に流すためのハード対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

## 主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。

### <危機管理型ハード対策>P4

- 越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策の推進  
いわゆる粘り強い構造の堤防の整備

#### <被害軽減を図るための堤防構造の工夫（対策例）>



### <洪水を安全に流すためのハード対策>P3

- 優先的に整備が必要な区間において、堤防のかさ上げや浸透対策などを実施

### <住民目線のソフト対策>P2

- 住民等の行動につながるリスク情報の周知
  - ・立ち退き避難が必要な家屋倒壊危険区域等の公表
  - ・住民のとりべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
  - ・不動産関連事業者への説明会の開催
- 事前の行動計画作成、訓練の促進
  - ・タイムラインの策定
- 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供
  - ・水位計やライブカメラの設置
  - ・スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供



\*「H27.12.11 国交省記者発表資料」を一部加筆し作成

※ 河川堤防の決壊に伴う洪水氾濫により、木造家屋の倒壊のおそれがある区域

# 住民目線のソフト対策

H27.12.11国交省記者発表

○水害リスクの高い地域を中心に、スマートフォンを活用したプッシュ型の洪水予報の配信など、住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう住民目線のソフト対策に重点的に取り組む。

## リスク情報の周知

○立ち退き避難が必要な家屋倒壊危険区域等の公表  
⇒平成28年出水期までに水害リスクの高い約70水系、平成29年出水期までに全109水系で公表



○住民のとりべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良  
⇒「水害ハザードマップ検討委員会」にて意見を聴き、平成27年度内を目途に水害ハザードマップの手引きを作成

○不動産関連事業者への説明会の実施  
⇒水害リスクを認識した不動産売買の普及等による、水害リスクを踏まえた土地利用の促進

## 事前の行動計画、訓練

○避難に着目したタイムラインの策定  
○首長も参加するロールプレイング形式の訓練



⇒平成28年出水期までに水害リスクの高い約400市町村平成32年度までに全730市町村で策定

## 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供

スマホ等で取得



洪水予報等の情報をプッシュ型で配信



自分のいる場所の近傍の情報

ライブカメラ



詳細な雨量情報

河川水位



自分のいる場所

⇒平成28年夏頃までに洪水に対しリスクが高い区間において水位計やライブカメラを設置  
・平成28年出水期からスマートフォン等によるプッシュ型の洪水予報等の配信を順次実施

# 洪水を安全に流すためのハード対策

H27.12.24東北地整記者発表

平成27年9月関東・東北豪雨を踏まえて設定した、堤防整備・河道掘削等の流下能力向上対策、浸透・パイピング対策、侵食・洗堀対策に関し、**優先的に対策が必要な区間約162km**について、**平成32年度を目途に、今後概ね5年間で対策を実施する。** ※優先的に対策が必要な区間約162kmは東北全体の延長。

パイピング、法すべり  
↓  
漏水対策(浸透含む)

L=約61km(堤防への浸透対策)  
L=約63km(パイピング対策)

- ・過去の漏水実績箇所等、浸透により堤防が崩壊するおそれのある箇所
- ・旧河道跡等、パイピングにより堤防が崩壊するおそれのある箇所



鳴瀬川支川吉田川(宮城県)

※岩木川は整備済中

流下能力不足  
↓  
堤防整備・河道掘削

L=約124km

- ・堤防高が低い等、当面の目標に対して流下能力が不足している箇所(上下流バランスを確保しながら実施)



鬼怒川(茨城県)

※岩木川は中流部が対象

水衝・洗堀  
↓  
侵食・洗堀対策

L=約4km

- ・河床が深掘れしている箇所や水衝部等、河岸侵食・護岸欠損のおそれがある箇所



阿武隈川支川荒川(福島県)

※岩木川は対象無し

優先的に対策を実施する区間L=約162km

※各対策の延長は重複あり

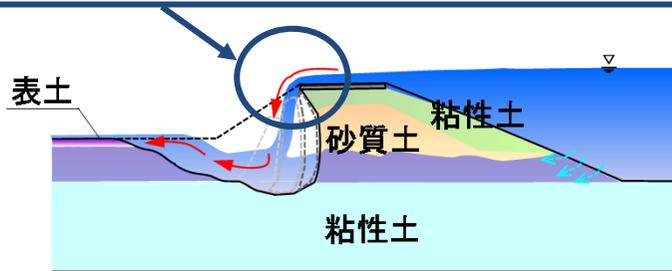
# 危機管理型ハード対策

H27.12.24東北地整記者発表

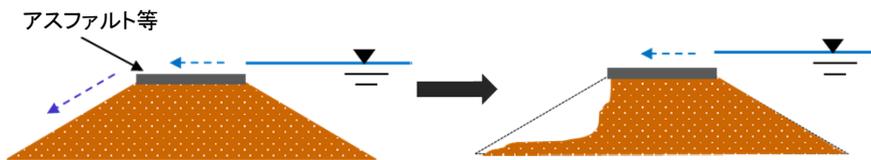
氾濫リスクが高いにも関わらず、当面の間、上下流バランス等の観点から堤防整備に至らない区間など約163kmについて、決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう、堤防構造を工夫する対策を平成32年度を目途に、今後概ね5年間で実施する。

## 堤防天端の保護 ※岩木川は現在整備中

堤防天端をアスファルト等で保護し、堤防への雨水の浸透を抑制するとともに、越水した場合には法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



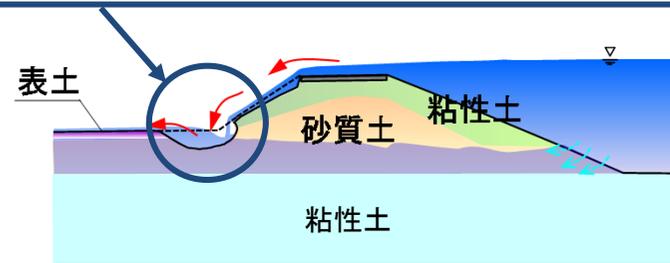
堤防天端をアスファルト等で保護した堤防では、ある程度の時間、アスファルト等が残っている。



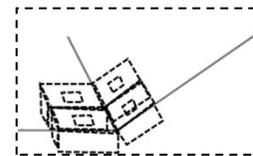
約75km

## 堤防裏法尻の補強 ※岩木川は無し

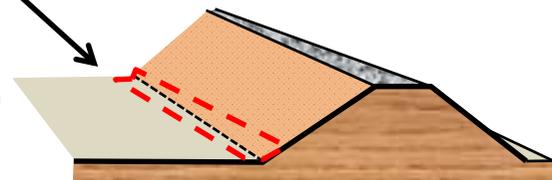
裏法尻をブロック等で補強し、越水した場合には深掘れの進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



堤防裏法尻をブロック等で補強



※ 具体的な工法については検討中



約106km

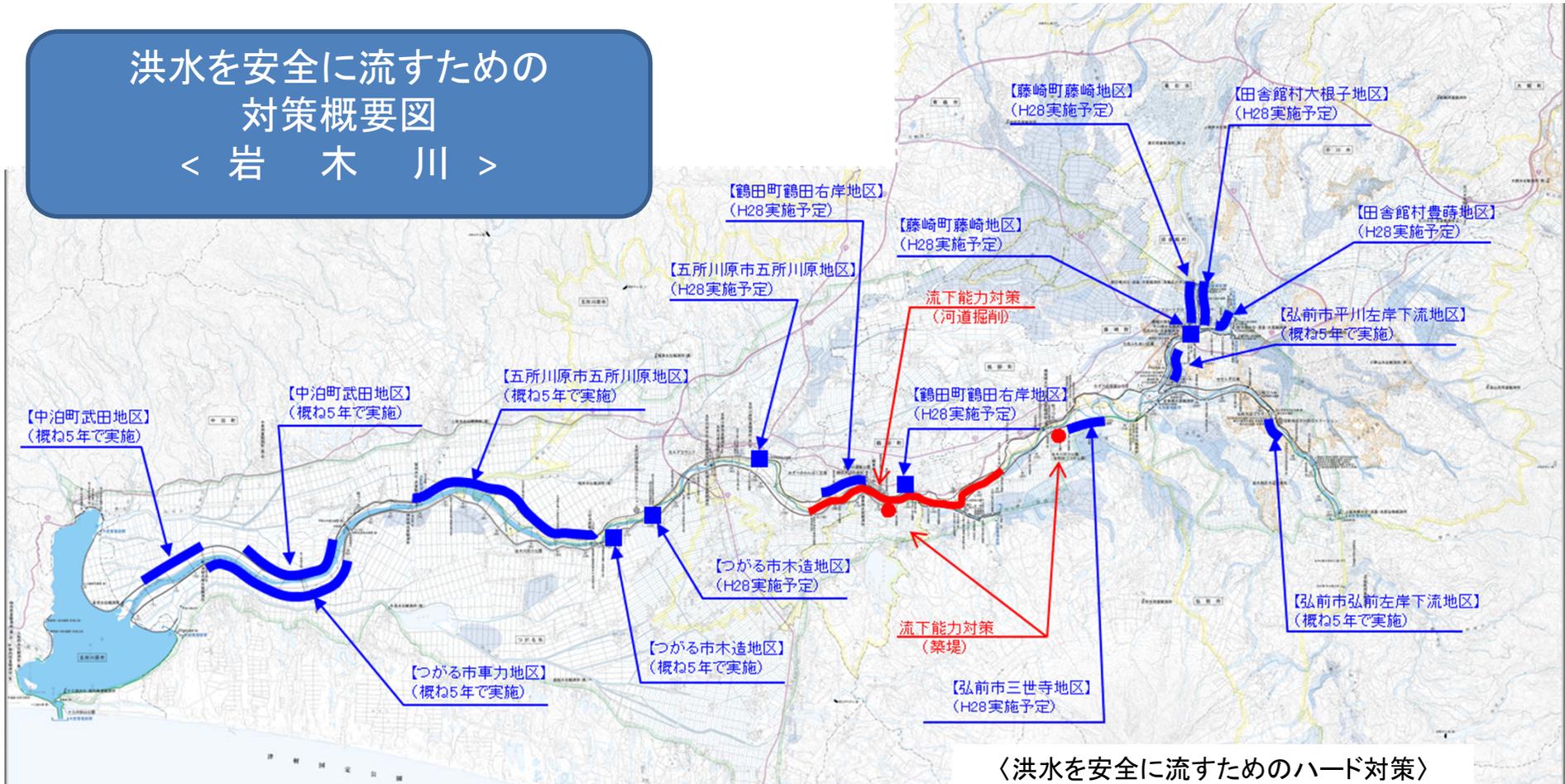
対策を実施する区間L=約163km

※各対策の延長は重複あり

# 堤防等河川管理施設の今後の整備内容

- ・「洪水を安全に流すためのハード対策」として、流下能力対策等を実施。
- ・「危機管理型ハード対策」として、堤防天端の保護を実施。

## 洪水を安全に流すための 対策概要図 〈岩木川〉



※具体的の実施箇所、実施期間等については、  
現地状況や洪水被害状況等を踏まえ必要な  
調査検討等を行い、実施予定

内 容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・流下能力対策</li> <li>・堤防天端の保護</li> </ul>

**【参考】岩木川等における最近の取り組み**

# 【岩木川等】首長を支援する緊急行動を行いました！ ～トップセミナー～

平成27年10月～12月  
青森河川国道

## 1. 経緯／概要

○平成27年9月に発生した関東・東北豪雨を踏まえ、岩木川水系川沿川の市町村長を対象に、避難勧告・指示の判断等に資する情報とその対応等について周知・確認を行うトップセミナーを開催した。

## 2. 日時／実施状況

### トップセミナー実施一覧

水系	対象市町村	実施日及び内容	実施場所等
岩木川	鶴田町	10/30 トップセミナー	鶴田町役場内
	五所川原市	11/19 トップセミナー	五所川原市役所内
	藤崎町	11/20 トップセミナー	藤崎町役場内
	田舎館村	11/24 トップセミナー	田舎館村役場内
	つがる市	11/26 トップセミナー	つがる市役所内
	中泊町	11/27 トップセミナー	中泊町役場内
	平川市	11/27 トップセミナー	平川市役所内
	弘前市	11/10 トップセミナー	青森河川国道事務所内
	板柳町	11/9 トップセミナー	板柳町役場内
馬淵川	八戸市	12/2 トップセミナー	八戸市役所内

### 【実施事例】



弘前市とのトップセミナー



平川市とのトップセミナー



つがる市とのトップセミナー



田舎館村とのトップセミナー

## 3. トップセミナーで出た意見・コメント等

- ・洪水時には早期に災害対策本部を設置するなど、早めに行動していく。
- ・避難勧告については、空振りを恐れずに、早め早めの対応をしておく必要がある。
- ・隣接する市町村等の情報を各自共有できれば、隣接する市町村との連携は可能となるのではと考えている。

# 【岩木川等】地域住民を支援する緊急行動を行いました！ ～共同点検～

平成27年10月～12月  
青森河川国道

## 1. 経緯／概要

○岩木川の堤防が決壊した場合に被害が想定される岩木川水系沿川の市町村を対象に、住民を避難させるための洪水情報などについて、自治会、水防団、自治体の方々と意見交換を行いました。

＜ 参加者数 : 合計約140名 ＞

## 2. 日時／実施状況

共同点検実施一覧				
水系	対象市町村	実施日及び内容		実施場所等
岩木川	鶴田町	10/30	共同点検	岩木川 右岸 36.6k 付近 (鶴田町菅蒲川 付近) 岩木川 左岸33.6k 付近 (鶴田町木筒 付近)
	五所川原市	11/19	共同点検	岩木川 右岸 28.2k 付近 (五所川原市字不魚住 付近) 岩木川 右岸 20.0k 付近 (五所川原市大字藻川字川袋 地内)
	藤崎町	11/20	共同点検	平川 右岸 4.0k 付近 (藤崎町大字藤崎字中川原 付近) 平川 右岸 2.8k 付近 (藤崎町大字藤崎字岡本 付近)
	田舎館村	11/24	共同点検	浅瀬石川 左岸 0.4k 付近 (田舎館村大字豊時 付近) 浅瀬石川 左岸 2.0k 付近 (田舎館村大字大根子字牧ヶ袋 付近)
	つがる市	11/26	共同点検	岩木川 左岸 28.2k 付近 (つがる市柏下古川川崎 付近)
	中泊町	11/27	共同点検	岩木川 右岸 11.0k 付近 (中泊町大字芦野 付近)
	平川市	11/27	共同点検	直轄管理区間の堤防が平川市に隣接していないため、共同点検は対象外
	弘前市	12/1	共同点検	岩木川 左岸 45.4k 付近 (弘前市大字大川字平岡 付近) 平川 左岸 4.4k 付近 (弘前市大字百田字岡本 付近)
	板柳町	12/4	共同点検	岩木川 右岸 44.0k 付近 (板柳町大字板柳字岡本 付近)
	馬淵川	八戸市	12/2	共同点検

## 3. 説明内容

【実施事例】



中泊町との共同点検



板柳町との共同点検

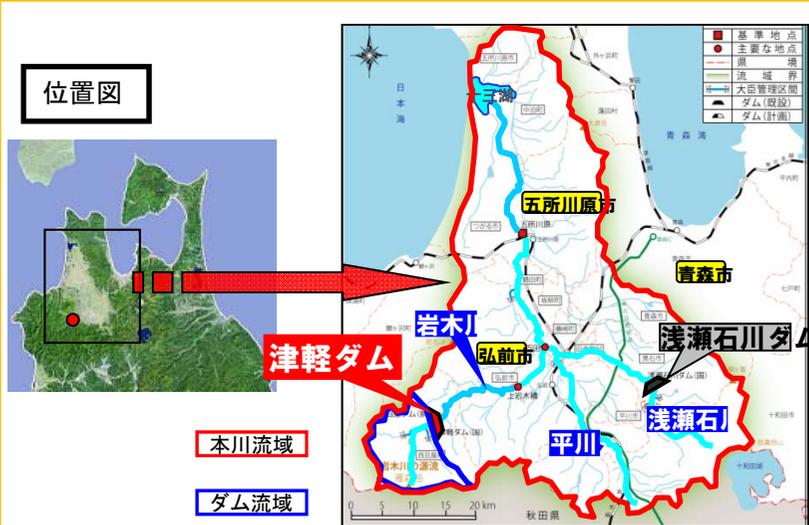
## 4. 意見交換会での主な意見等

- ・避難に伴う河川の水位や降雨等気象情報などを共有することは非常に重要と考えている。
- ・水防活動などについては、これからも水防団との横の連携をとって一致団結していきたい。
- ・岩木川が氾濫した場合に、どこからどこまでが水平あるいは垂直避難しなければならないかを確認する必要がある。

# 【岩木川上流ダム】 津軽ダム試験湛水実施中！ ～平成28年2月13日から試験湛水開始～

## 1. 経緯／概要

○目屋ダムは、昭和35年に完成し、現在まで50年もの間、岩木川を洪水から守り、下流域のかんがい用水を補給してきましたが、ダムの規模が小さいことから相次ぐ洪水被害や渇水被害への対応が困難となったことから、目屋ダムの直下流部に新たに「津軽ダム」を建設し、現在は試験湛水を実施中。



### 【津軽ダム試験湛水式】

- ・場 所: 青森県西目屋中央公民館
- ・主 催: 西目屋村、青森県中南地域県民局、津軽ダム工事事務所
- ・出席者: 津島政務官、東北地方整備局長、青森県副知事、西目屋村長外
- ・来 賓: 木村太郎衆議院議員、山崎力参議院議員、滝沢求参議院議員、  
県、市町村議会議長外 【約150名出席】



### 湛水式での地元 西目屋村長の発言

- ・津軽ダム湛水を機にダムツアーを実施していく。
- ・ダムツアーをしっかりとやりながら、津軽ダムの意義を後世に伝えていく。